

1.調査目的等

・義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
 ・そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
 ・学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2.学校ごとの指標

【短期指標】

○全国を100とした標準化得点で、【国語98.0以上】【数学96.0以上】を目標とする。

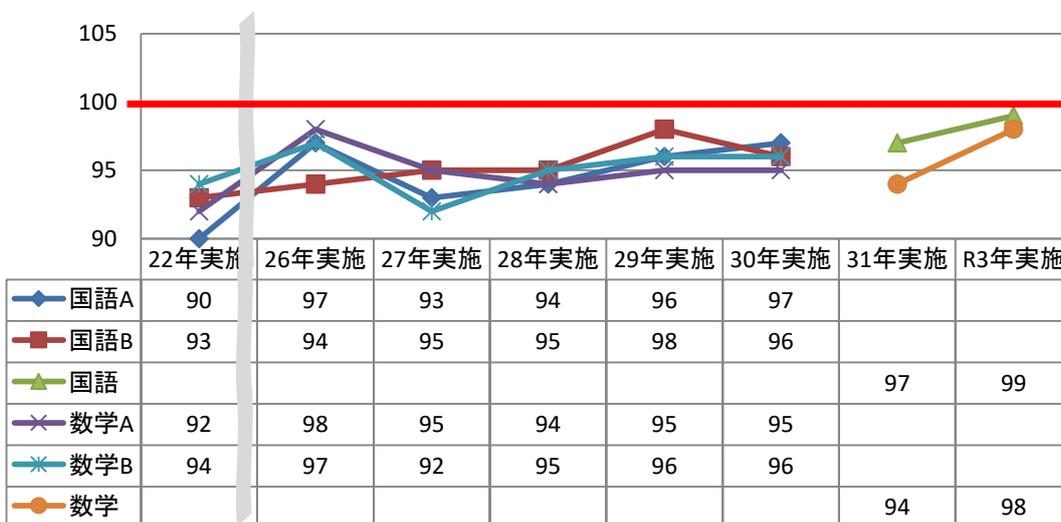
3.指標に向けての取組

- 1単位時間において、確実に習得させる知識および技能を明確にし、まとめの活動で方法価値および内容価値を書く時間を確保し学んだことの定着と活用を図る。
- 定期考査前後にチャレンジタイム、フォローアップタイムを行い、基礎・基本の定着を図る。
- 自学ノートと課題プリントを徹底し、家庭学習の定着を図る。
- 定期考査において、授業で学習した活用力を問う問題を出題する。
- 分割授業や個に応じた支援により、下位層の底上げを図る。

4.調査結果(全国の平均正答数を100としたときの文科省標準化得点)

	国語	数学
本校	99	98
嘉麻市	97	97
全国	100	100

推移



※ 平成31年度実施から「知識に関する問題(A問題)」と「活用に関する問題(B問題)」を一体的に問う形式に変更

5.各学校における分析

- 国語の視点として、話し合いや交流活動の際に、話し合う際の役割を明確化することや話す内容と目的を明示する必要がある。生徒と話し合いや交流活動を仕組んだ教師側との意識のズレを減らし、認識の共有化をはかる必要がある。
- 数学の問題の視点については基礎基本が身につけていない生徒(いわゆる問一問題など)の割合が全国と比較して多い。また、文章を正確に読み取ることや言葉の意味を文脈に応じて判断する力をつけることについて余地がまだあることが分かる。
- 文章を記述させる際には、教え合い活動を積極的に取り入れ、書いた文章を相互批評させるような視点が必要である。

6.各学校における今後の取組

- 習熟の程度に応じた指導や発展的な学習、補充的な学習等、学力実態の分析に基づいた個に応じた指導の充実、とりわけ習熟度別分割授業を積極的に取り入れる。
- 基礎・基本の定着を図るために、定期考査前後のチャレンジタイム、フォローアップタイムを効率的に行う。
- 朝学習を利用し、基礎・基本の徹底を図る。
- 入試問題の傾向を分析し、活用力を問う授業づくりを進め、定期考査でも積極的に出題する。
- 深い学びにつながるように、書く活動や交流活動を積極的に取り入れる。
- 家庭学習においても、知識問題と活用力を問う問題の双方を実施する。

7.嘉麻市教育委員会としての今後の取組

- 各学校が自校の課題を明確にするとともに、嘉麻市アクションプラン、嘉麻市学力向上全体構想をもとにした学力向上策を浸透・徹底させていくために、次の7点を中心に取組を進める。
- 学力向上プランを各教室に浸透・徹底させるための短期スパンのPDCAサイクルについて指導・助言を行う。
- 学力向上を図る上で効果のあった取組について共有化を図る研修を企画・運営する。
- 同一集団の学力や学力層の推移に着目しながら、学力向上策の評価・分析を行い取組の検証改善を図るように指導・助言する。
- 校内研修や学校訪問において、「書く活動ポイント9」の活用を促す等、思考を伴う書く活動の徹底指導を図るように指導・助言を行う。
- 学力向上に向けた取組が組織的・計画的に実施できるための指導・助言を行う。
- 家庭学習の習慣化、個別化に向けた取組についての交流や指導・助言を行う。
- 主幹教諭研修会において、それぞれの学校種の課題に即応する研修内容を工夫する。